

官  
國  
法  
汎  
論

下  
帙

第  
七  
冊

特 53

80

甲  
四  
共  
十  
本

館 書 圖 京 東	
函 四 一	門 新
架 二	部 一 一
號 八 〇 〇 五	類



明治七年刊行

イ、カ、ダ、ル、ン、キ、リ、著  
從五位加藤和之譚

下帙第七冊

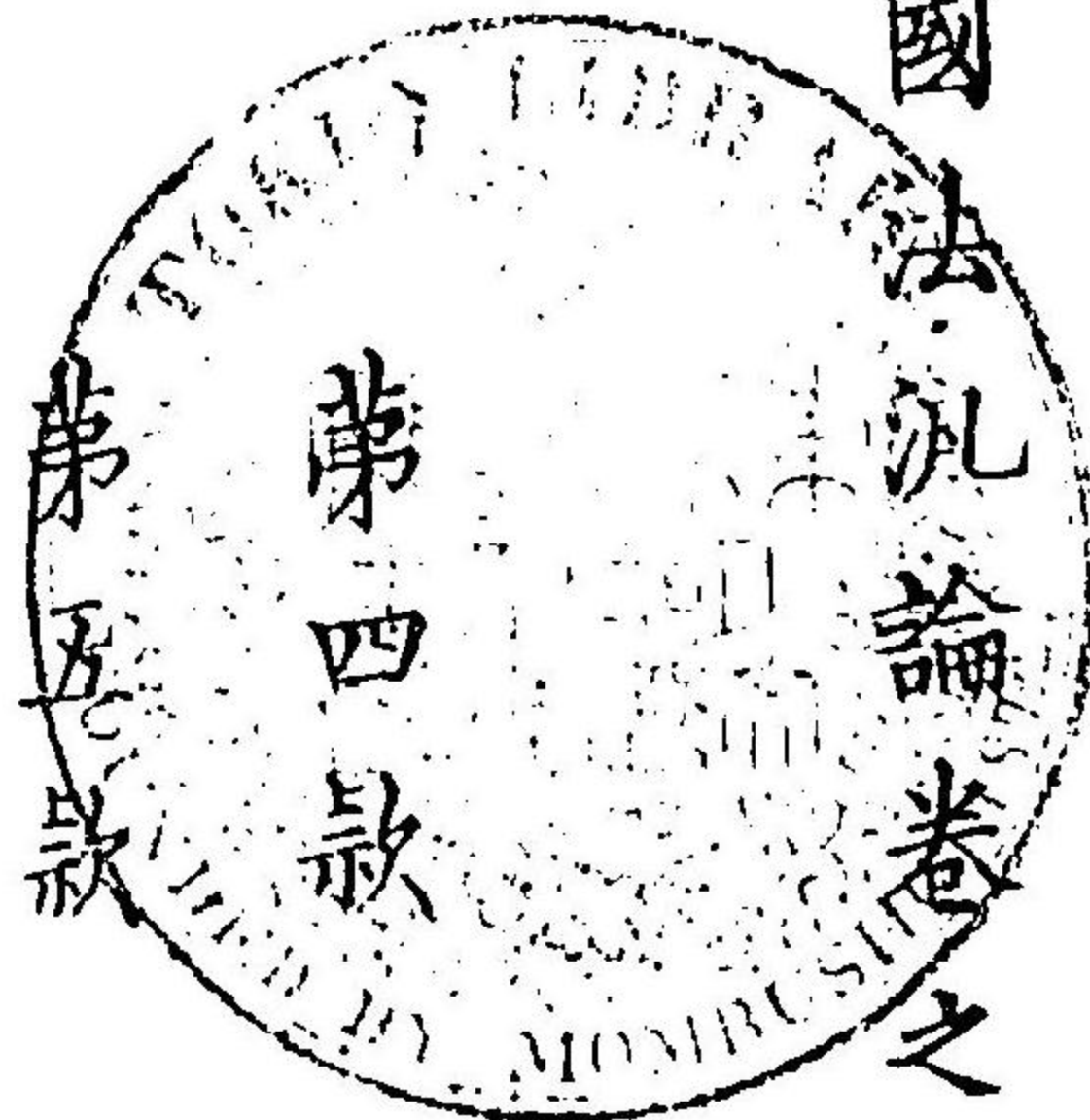
# 國法汎論

## 文部省

下帙第七冊

國法汎論卷之八下目錄

明治七年文部省交付



第四款

刑法事務

第五款

政務法事務

第六款

司法ノ疆域○政務法ニ屬スル事

訟

國法汎論

下目錄

文部省



明治七年刊行

イカガールン著  
從五位加藤和之譯

下帙第七冊

# 國法汎論

## 文部省

下帙第七冊

國法汎論卷之八下目錄



- 第五款 刑法事務
- 第六款 政務法事務
- 第七款 司法ノ疆域○政務法ニ屬スル争訟

明治九年文部省交付

國法汎論

下目錄

文部省



國法汎論卷之八下

イ、カ、ブルン、五リ、著

加藤弘之譯

第四款

刑法事務

ストラフレヒツブレ ゲ 按 又治罪事務ト譯ス、

即テ斷獄事務ナリ、

〔第一〕中古ノ世ニハ、羅馬人種及日耳曼人種ノ各

國共ニ、刑法事務ノ施行ヲ三等ニ分テ、各其官司

ヲ異ニセリ、蓋、此制ハ、元來獨乙ノ國土人民ノ分

割法ニ由リレ者ナリ、乃チ古時獨乙ニテガウ、フ

ンタリ、及、ワイレル

〔按〕國土ラ三等ニ分割セシ名  
稱ナリ、而シテガウヲ大部ト



中、之ヲ數フンタリニ分チ、又フンタリヲノ分割  
 中部トシ、更ニ之ヲ數ワイルニ分テリ  
 ハ、軍事制度、及司法制度ニ應シテ、設ケン所ノ法  
 ナリ、其後佛國ニ於テモ亦法院ヲ上中下三等ニ  
 區分シ、〔按〕即チ土地ヲ三等ニ分復タ獨乙ニテモ高  
 等〔按〕ホグタイ、〔按〕法下等〔按〕ホグタイト、及地頭ノ司法  
 局〔按〕封地ヲ受有セル地、若クハ邑クマルノ司法局  
〔按〕地頭ノ自ラ立ル者ナリ、若クハ邑クマルノ司法局  
 法局ヲ共ニ第三等トナス、トニ區分セリ、○且、罰  
 スベキ罪科ヲ其輕重ニ隨テ、三等ニ區分シ、併ニ  
 法院ノ職掌ヲモ、三等ニ區分シ、右三等ノ法院ヲ  
 シテ、其處決ヲ分掌セシメタリ、凡真誠ノ傷和罪

フリリ、〔按〕ハ實ニ平和安全ヲ  
 フリリ、〔按〕ハ實ニ平和安全ヲ  
 傷害スル者タルヲ以テ、全ク此罪犯人ノ權利ノ  
 剥奪シテ之ヲ誅戮スルヲ要シ、及ヘル、ブレリヘ  
〔按〕大罪ヲ云、下文ノ如キモ、必亦其生命ヲ假サ  
〔按〕ニ於テ解説ス、ノ如キモ、必亦其生命ヲ假サ  
 サルヲ要シタリ、故ニ是等ハ總テ高等法院ニ於  
 テ、判定處刑シタリキ、而テ此法院ハ、國君ヨリ直  
 ニ人命ヲ褫フノ權ヲ以テ、授與セラレタル者ナ  
 リキ、又フレールヘル、〔按〕故意ヲ以テ及偷盜ノ如キモ  
 法制ヲ毀損スル少ナカラスト雖モ、之ヲ罰スルニ、  
 決シテ生命ヲ褫フヲ要セス、唯體刑、〔按〕ケルペル  
〔按〕トラフ又ラ



イ、ベ、ス、ト、ラ、フ、〔按〕 駮軀ニ施ス刑ト云ノ義ニテ、即、苦、杖、等、ノ、刑、ヲ、云、方、今、文、明、開、化、ノ、國、多、ク、ハ、此、刑、ヲ、廢、セ、リ、若、ク、ハ、金、刑、〔按〕 即、罰、金、ノ、リ、ニ、處、シ、テ、足、レ、ル、者、ナ、ル、カ、故、ニ、是、等、ハ、皆、中、等、法、院、ニ、於、テ、處、刑、タ、リ、キ、○、古、時、ノ、司、法、常、則、ハ、大、凡、以、上、論、ス、ル、カ、如、ク、ナ、リ、キ、但、唯、輕、罪、過、失、等、ノ、如、キ、大、イ、ニ、國、家、ノ、法、則、ニ、害、ナ、キ、者、ハ、皆、地、頭、ノ、司、法、局、ニ、於、テ、處、刑、シ、或、ハ、地、頭、ノ、管、轄、ニ、歸、セ、ス、シ、テ、尚、自、由、ノ、權、ヲ、保、有、セ、シ、諸、邑、ニ、テ、ハ、邑、ノ、司、法、局、ニ、於、テ、處、刑、シ、タ、リ、キ、

今、時、モ、尚、上、ニ、論、ス、ル、所、ノ、罪、科、區、分、法、ヲ、從、用、ス、

唯、少、シ、ク、變、革、ス、ル、所、ア、ル、ノ、ミ、故、ニ、今、時、ニ、在、リ、テ、モ、ヘ、ル、ブ、レ、ー、ハ、ニ、〔按〕 大、罪、ヲ、云、故、ニ、下、ヘ、ル、グ、

一、ヘ、ン、〔按〕 尋、常、ノ、罪、科、ヲ、云、故、及、〔按〕 小、罪、ヲ、云、故、ニ、

ル、ト、レ、ー、ツ、ン、グ、〔按〕 法、院、ノ、刑、罰、ヲ、受、ケ、ス、唯、警、保、罪、ト、認、ス、

下、文、又、警、保、ノ、三、等、ヲ、分、立、シ、大、罪、ハ、擔、士、法、院、ニ、於、テ、判、定、處、刑、シ、中、等、ノ、合、議、法、院、ニ、於、テ、判、定、處、刑、シ、又、警、保、罪、ハ、下、等、ノ、警、保、法、院、〔按〕 眞、ノ、ア、ラ、ス、唯、警、保、官、ニ、ニ、於、テ、判、定、處、刑、ス、但、故、ア、レ、附、屬、ス、ル、法、院、ナ、リ、ニ、

ハ、時、ト、シ、テ、二、三、ノ、常、罪、ス、或、ハ、擔、士、法、院、ノ、處、分、ニ、任、シ、或、ハ、警、保、法、院、ノ、處、分、ニ、任、ス、ル、ア、リ、即、



此罪科ニ就テ若シ審理判定等ノ事務ヲ務テ丁  
 寧綿密ナラシメ且、他ノ拘束ヲ受ケス、自由ニ處  
 分セシムルヲ要スルキニ於テハ、乃チ其處分ヲ擔  
 士法院ニ托シ、或ハ此罪科甚輕シテ、殆小罪ニ  
 類似スルカ如キキニハ、其處分ヲ以テ警保法院  
 ニ托スルナリ、

但、大罪常罪ノ區別ハ、人學ハスト雖モ、能ク辨別  
 シ得ル者ニシテ、二罪共ニ刑法官ノ本職ニ屬ス、  
 是ヲ以テ刑法事務ノ編制ニ就テハ、能ク此區分  
 ヲ遵守スルヲ要ス、○去凡此二罪ハ共ニ國家ノ

法制ヲ毀損傷害スル者ナルヲ以テ決シテ唯私  
 法ニ背ケル不正ノ所行ト為ス可ラス、又唯警保  
 官ノ處分ニ屬ス可キ罪科トモ為ス可ラス、實ニ  
 國家ノ正義公直ノ旨ヲ毀損スル罪科ト為ス可  
 キヲ固ヨリ當然ナリ、故ニ此罪科ニ就テハ訴訟  
 法ニ於ケルカ如ク、唯僅ニ毀損セラレタル權利ヲ  
 回復スルノミヲ以テ足レリト為ス可ラス、又警  
 保法ノ如ク、國家ノ正義公直ノ旨ヲ守護スルヨ  
 リハ、殊ニ一般ノ安寧秩序ヲ保護スルノ意ヲ以  
 テ、處分ス可ラス、實ニ一旦毀損ヲ受ケタル國家



ノ正義公直ヲ、追回復舊スルノ意ヲ以テ、罪犯人ニ刑罰ヲ加フルヲ緊要ナリ蓋然セサレハ、正義公直ノ旨、決シテ安全ナルヲ得ル能ハサレハナリ、○但此ニ罪相分カル、所以ハ、其景況ノ尋常ト非常ノ別アルニ由ルナリ、尋常ノ罪ハ尋常ノ罪ト云フナリ、大罪ハ非常ノ罪ト云フナリ、尋常ノ罪ハ尋常ノ罪ト云フナリ、乃、大罪ハ常罪ノ重大トナリタル者ト云フモ可ナリ、即左ニ論ス、

④ 罪犯ノ所行、祇國家ノ一部分ヲ害スルニ止マラス、實ニ國家ノ全體ヲ害スル者ハ、重キ罪、即、大罪トナル可シ、例ハ、逆謀ハ實ニ大罪ト称ス可

シ、去レハ僅ニ政府上官ニ抗スルノ所行ハ、唯常罪ト称ス可シ、⑤ 大ニ人ノ危難ヲ生スル所行、及、道義ヲ傷フ所行ノ中ニ就テ、甚タ暴惡ナル者ハ、重キ罪、即、大罪トナル可シ、例ハ、行劫、強盜、及ヒ強姦ハ大罪ナリ、去レハ尋常ノ竊盜、及ヒ人ヲ侮辱シ、或ハ罵詈スル等、人ニ大害ヲ為サ、ル者、并ニ人ヲ欺騙スル所行等ハ、通例常罪ト称ス可ク、其他過失ニ屬スル罪科モ、亦皆常罪ノ内ニ列ス可シ、⑥ 時アリテ損害ヲ生スル甚々巨大ナルニ至ルキハ、常罪變ニテ遂ニ重キ罪、即、大罪トナル可



譬へハ猶水ノ熱ヲ受クル最大ナルニ至ルハ則變レテ蒸氣トナルカ如シ、例へハ尋常ノ竊盜ト雖モ、其盜ハ所甚ク巨大ナルキハ、即大罪トナルナリ、凡大罪常罪ノ相分カル、所以ノ理、通例此ノ如シ、去、片尚之ヲ綿密ニ區分スルニ至リテハ、各國其法ノ沿革、及制定ニ由ル者ニレテ、必ス一定ノ法アルニアラス、○大常ニ罪ノ輕重大約上ニ論スルカ如シ、故ニ大罪ニハ通例生刑、ベシトシテ、按生命ヲ奪フ刑ト體刑、ライバ、云フ義ニレテ、即チ死刑ヲ云ナリ、體刑、ストラフ、按軀ニ施ス刑ノ類ヲ義ニ鍊刑、ケツ、鎖、テ、鎖、ヲ、以テ手足等

ヲ收縛スル徒場刑、ツフトラハウ、放逐、デボル、タ、ノ刑ヲリ、徒場刑、ツフトラハウ、放逐、デボル、タ、ノ如キ刑、能ク適當スル者ナリ、故ニ是等諸刑ヲ以テ、決シテ常罪ヲ罰ス可ラス而テ通例大罪ハ、哲士法院ニ於テ審理判定シ、常罪ハ、下等法院ニ於テ審理判定ス、

第二 スターツアイン ワルトナル 公官アリテ、罪

犯人ノ追捕告訴ヲ掌ルノ法ハ、實ニ刑法施行ノ本旨ニ適スト云フ可シ、凡、罪犯ノ所行ハ、決シテ私事ニ關スル者ニオラス、實ニ國家ニ關スル者ナリ、是故ニ罪犯人ニ傷害セラレタル者、若シ罪



犯人ノ為ニ其罪ノ宥恕ヲ乞願スルコトアリテ、且、其願意頗ル忠厚ナリト云フモ、國家決シテ之ヲ採用スル能ハス、苟クモ罪犯人アルキハ、國家ハ、必ス公衆ノ為メ、嚴ニ之ヲ罰シ、以テ其正義公直ノ旨ヲ昭明ニセサル可ラス、○元來治罪審理ハ、決シテ兩個私人ノ相對シ相争フヲ裁判スルカ為ニアラス、實ニ國家其公義正直ノ傷害トナル者ヲ除去シ、更ニ之ヲ昭明ニスル所ノ處分ナリ、是故ニスターツアインソルトハ獨リ罪犯人ノ對手タル者ト思フ可ラス、又唯罪狀ノ疑案起ル所

以、及其確證アル所以ヲ推究呈案スルノミヲ、以テ足レリト為ス可ラス、必ス能ク思フ運ラレテ、其罪狀ノ無キ所以、及ヒ罪狀ノ減スル所以等ヲモ、注思考察セサル可ラス、○此官ノ居心苟クモ偏頗ナキヲ要スルハ、實ニ法士ニ同シ、但、此官ハ殊ニ告訴ヲ掌ルヲ以テ、自ラ國家ノ正義公直ノ旨ヲ負荷シ、之ヲ以テ罪犯人ト相對シ相争ヒ、而テ罪犯人ノ對手トナルヲ、其主務トナスヘキ者ナルカ故ニ、其地位タルヤ、法士ニ比スレハ自ラ自在ナル所アリ、是故ニ此官ハ、必ス法院ヨリ分派



シテ、別種獨立ノ官ト為スヲ良シトス、然ルニ中  
 古ノ世ニ於テハ、各國專任法士ニ告訴ヲモ兼掌  
 セシメシ者多カリキ、此法甚々不可ナリ、  
 スターツアーレンワルトナル官ヲ設置セシ濫觴  
 ハ、其迹既ニ中古各國ノ諸制度中ニ存ス、則中古  
 獨乙ライヒス、多ト〔按〕獨乙帝ニ直隸セシ土地  
 地ト相ノナーフゲンゲル、及〔ナ〕ナーフリヒテルノ  
 異ナリ、  
 如キ官、又瑞典ノコローンヘグトノ如キ官、此官  
 法士ノ未タ審理ヲ施サ、ルニ方リテ、預メ査問  
 ヲ施スヲヲモ掌レリ、并ニ佛國ノプロキール、ツ

ウ、ロアノ如キ官、此官ハ、元來羅馬ノアドホカチ、  
 ヒスキノ如ク、王室所有地ノ事ニ就テ、告訴ヲ掌  
 ル者ナリシカ、又他事ニ就テ、私訴ヲ為ス者アラ  
 サルキニ於テハ、其告訴ヲモ兼掌シタリキ、ハ皆  
 スターツアーレンワルトノ萌芽、如クナル者ナ  
 リキ、○去レバ實ニ此官ノ制ヲ、完全ノ者ト為シタ  
 ルノ功ハ、全ク佛國ニ在リ、那破倫第一世、始メテ  
 ゲ子ラールブルククラトール〔按〕スカラーツアレン  
 ト稱スル官ヲ設置シ、之ヲ司法省ト合シテ、告訴  
 ヲ掌ラレメ且之ニゲ子ラールブルアドホカールト〔按〕即



ラ補助スルノ官ナリ、ナル官吏數負ヲ附屬セ  
 リ、尔来他各國ニ於テモ、漸ク佛國ニ倣テ、此官ヲ  
 設置スルニ至リ、但佛國ニテハ、此官ノ權力過  
 大ニレテ、殆ト法院ノ右ニ出ルノ弊ヲ生セシニ、他  
 各國ニ於テハ、却テ能ク此弊ヲ避クルヲ得タリ、  
 第三英國擔士法院ヒウリヒトヲ用フルノ制度、漸  
 ク他各國ニ覃及セシカ、就中刑法事務ニ於テハ、  
 此制ヲ用フルト最モ盛ニレテ、遠ク私法事務ニ  
 超ユ、初メ亞米利加此制度ヲ取用シ、次テ佛國及  
 ヒ羅馬人種ノ各國ニ及ヒ、近世ニ至リテハ獨乙

及瑞士等、亦皆之ヲ取用スルニ至レリ、然レ此法  
 各國ニ蔓延スルニ隨テ、漸ク數種ノ弊害ヲ生  
 タリ、蓋此制度各國ニ於テ、全ク民性ニ適レ實ニ  
 司法ニ緊要ナル者トナルニ至ル迄ハ、恐ラクハ  
 猶數歲月ヲ費スナル可シ、  
 擔士法院ノ本性ハ、殊ニ下ノ二件ニ在リ、其第一  
 件ハ、判定ヲ二分スルトス、即其一ヲ事問トク  
 ラ、ノ判定ト為ス、及ヒ法ニ由テ罪ノ有無ヲ判  
 決スルノ務メモ、亦必此判定ニ屬レテ、離ル、  
 ナレ、其二ヲ法問レヒト為ス、即刑法



ニ據テ、罪科ニ適當スヘキ法ヲ決定スルヲ云フ  
 ナリ、又其第二件ハ司法ノ官司ヲ全ク區分シ、法  
 士ト擔士トヲ設ケ、而レテ事問ノ判定ハ、必、民間  
 ヨリ舉ケタル私人〔按〕擔士〔必〕スレモ法學ニ練磨  
 セル者ニアラス〔二〕托シ、法問ノ判定ハ、必、能ク法  
 學ニ練磨セル定任ノ官吏ナル法士ニ委任スル  
 ナリ、但、事問ノ判定ヲ掌レル私人ハ、決レテ中古  
 日耳曼ノ〔シ〕ヘ〔按〕擔士ノ如ク、定任スルニアラス、  
 必、時ニ臨テ舉任スルカ故ニ、時々交代スル者ナ  
 リ、

擔士ヲ用ノル制度ノ利害ハ、左ニ論スル所ノ景  
 況ニ由ル、凡ソ法士ト擔士ノ際、絶エテ嫌隙ヲ生  
 スルコトナク、能ク一致シテ、共ニ司法事務ヲ掌リ、  
 而テ常ニ審理ヲ總管スル所ノ法士ハ、其事務ヲ  
 掌ルノ卓越ナルニ由テ、能ク法學ニ練熟スル所  
 以テ表スニ足レハ、此制度甚々利アリト云フ可  
 シ、然ルニ若シ擔士法院ノ景況、全ク之ニ反スル  
 片ハ、其利害亦相反スル言ヲ俟タス、其他法士タ  
 ル者、アドホカイト〔按〕對手ニ代リ者、若クハ兩對手  
〔按〕罪狀ヲ告訴セラレタル者ト、〔ト〕云フナリ、〔ト〕為メニ、愚弄







ルコトハ、最モ緊要ナルコトナリ、  
 英國ニ於テハ、尋常ノ擔士法院（アウルゲマインゲリヒス、  
 ト、別種ノ擔士法院（スペルチエルヒス、  
 テ、全ク區別セントスルノ機、既ニ現然タリト雖  
 他國ニ於テハ、或ハ此區別ヲ以テ、却テ不可ト  
 為スノ論アルヘシ、○凡、尋常ノ擔士法院ト称ス  
 ル者ハ、其擔士ナル者判定ヲ為スニ、絶ヘテ別種  
 ノ學習練磨ヲ要セサル法院ヲ云フ、尋常ノ審理  
 ハ、大抵此法院ニ於テ掌ル所ナリ、然ルニ別種ノ  
 擔士法院ト称スル者ハ、事間ヲ判定シ、及ヒ罪ノ

有無ヲ判決スル等ニ就テ、必、別種ノ學習練磨ヲ  
 要スル時ノミ、其務ノニ役事スル所ノ法院ヲ云  
 フナリ、而、テ尋常ノ擔士法院ニハ、唯尋常ノ才識  
 アル人物ヲ舉任スルノミニシテ足レリ、決シテ  
 別種ノ學習練磨アルヲ要セス、故ニ尋常平民ノ  
 中等ニ於テ、其人物ヲ求ムルモ、決シテ得難キニ  
 アラス、然ルニ別種ノ擔士法院ニ舉ント欲スル  
 擔士ノ如キハ、必、別種ノ學習練磨ヲ要スルカ故  
 ニ、其人物ヲ選フニハ、必、別種ノ業科ニ練磨セル  
 徒中ニ就テ、為サ、ル可ラス、○例ハ、出版ノ事



件ニ就テ、審理ヲ施ス時ニ於ケルカ如キ、元來其事ニ諳熟スル者甚ク多カラスト雖、凡、盜賊殺傷等ノ告訴アル時ニ於テハ、縱令練磨セル者ヲ選ヒ、以テ別種擔士ト為サ、ル可ラス、凡、盜賊殺傷等ノ告訴アル時ニ於テハ、縱令嘗テ別種ノ學習練磨ヲ經サル都人農民等ト雖、唯其事ノ景況、諸種ノ證左、及、被告人ノ舉動等ニ據テ、其罪科ノ虛實ヲ判定スル、決シテ難カラスト雖、凡、法院若シ文章上ノ辯論、或ハ語言上ノ條陳等ニ於テ、才力アル自護者〔無被〕ノ縱談巧辭ヲ以テ、其罪迹ヲ掩蔽セントスルヲ洞察シ、或

ハ一個人〔アインツルン、按〕又一人ヲ指斥スルノ語ナリ、茲ニ一個人ト云ノ論說、縱令公衆一般〔即チ被告人ヲ指ス、〕ノ所見ト全ク相表裏スル、ト雖、亦辯論ノ自由權ヲ敬重シテ、自由ニ辯論セシムルカ如キハ、尋常平易ナル都人農民等カ微力ノ決シテ及ノ所ニアラス、若シ此ノ如キ時ニ於テモ、仍尋常平易ナル都人農民等ヲ舉テ、擔士ト為ス、片ハ、動モスレハ自護者カ縱談巧辭ノ詭譎ニ陥リ、遂ニ其判定ヲ誤ルヤ必然ナリ、總テ此ノ如キ擔士ハ、素確乎タル學習ナキヲ以テ、其判定ニ於ケル、或ハ



甚嚴酷ニ過ギ、或ハ甚寛大ニ失シ、加之私意ヲ挿  
 サムカ如キ弊害ナキヲ得ス、  
 誓士ヲ舉任スルニ、括弧子ノ法ヲ用フルノ國最  
 モ多シ、實ニ宜シキヲ得ル法ト云フ可シ、若シ他法  
 ヲ用フルルハ、必ズ二個ノ相對セル嚴礁ノ危害ヲ  
 避クル能ハサルヘシ、他法二種アリト雖モ、俱ニ  
 誓士制度ノ良正ヲ障害スル者ナリ、即チ其第一法  
 ハ、政府專ラ誓士ノ舉任ヲ掌ルノ法ナリ、凡シ法士  
 ノ如キハ素高貴ノ官ニシテ、且其人ハ必ズ法學ニ  
 練熟スル者ナルカ故ニ、政府之ヲ舉任スト雖モ、

決シテ政府ノ威光ニ眩惑セララル、カ如キ患ナ  
 シ、然ルニ誓士ノ如キハ、素官吏ニアラス、亦盡ク  
 能ク法學ニ通曉スル者ニアラサルヲ以テ、政府  
 ノ舉任ヲ受クルルハ、多クハ唯政府ノ意旨ヲノミ  
 奉承シ、動モスレハ其旨ヲ遂クルノ具トナルニ  
 至ルノ弊害アリ、是即チ第一ノ嚴礁ナリ、又其第三  
 法ハ、國民ノ選擇ヲ以テ誓士ヲ舉任スルノ法ナ  
 リ、若シ此法ヲ用フルルハ、勢ヒ誓士唯政論黨派按  
 明開化國ニシテハ、政治方法ノ議論ニ就テ、衆民中  
 ニ數党分ビ、各其是トシテ可ト思フ所ヲ主張シ  
 テ、相競ヒ、以テ遂ニ政令ノ方向ヲ變セシメ、  
 ムルノ勢カアリ、之ヲ政論黨カト云ス、ノ意ヲ



奉承シテ、之ニ依靡スルニ至ル、故ニ誓士タル者  
 殆政論黨派ノ奴僕ノ如クナリ、偏頗不公平ノ判  
 定ヲ以テ、遂ニ司法事務ノ純清ヲ汚スノ弊害ヲ  
 リ、是即第二ノ巖礁ナリ、是故ニ此二個ノ巖礁ヲ  
 避ケント欲セハ、必、拈闖子ヲ以テ舉任スルノ法  
 ヲ用ヒサル可ラス、○但、此法ヲ用フルハ、被告  
 者或ハ自ラ信セサル誓士ノ判定ヲ受クルノ患  
 ヲ免レサルカ如シト雖、被告者若誓士ヲ信セ  
 サルコトアラハ、直ニ之ヲ辞却レ得ルノ權利ヲ以  
 テ、之ニ與フルノ法アレハ、此ノ如キ患ハ、全ク消

滅ニ歸スル、敢テ辨ヲ俟タス、  
 但、拈闖子ヲ以テ舉任スルハ、其事素偶然ニ出ル  
 者ナレハ、決シテ人物ノ其任ニ耐ルヲ保ツニ足  
 ラサル者ナリ、故ニ必、能ク其任ニ耐ユヘキ者ノ  
 ミヲ以テ、拈闖子ノ權利ヲ得セシムルコト、甚、緊要  
 ナリ、誓士タル者、其力若、獨歩自立シテ、家計ヲ經  
 營スル能ハサルハ、決シテ衆望ヲ得ル能ハス、且、  
 通例成人ノ年齢ヲ過キテ、家事産業ニ由リ、世事  
 ニ諳練スル者ニアラサレバ、決シテ其任ニ適ス  
 ル能ハサルカ故ニ、以上諸件ニ於テ、實ニ間然ス



ヘカラサル者ノミヲ舉任スルノ法ハ實ニ公正ニシテ、且、眞實ナル判定ヲ期スルニ甚、緊要ナリ、  
 ○但、誓士法院モ、必、亦以テ正義公直ノ旨ヲ保護スヘキ者ナリ、故ニ之ヲレテ、決シテ政令ノ利害得失ニ着意セシメサルヲ、甚、緊要ナリ、

○〔按〕英國ニテハ、一千八百二十五年ノ憲法

ヲ以テ、誓士舉任ノ法ヲ確定シテ、年齢二十  
 一ニ至リ、且、土田ノ歳入十ポンド一ポンドハ、大約我  
 カ五圓ニヲ得ル者、若クハ所有物ノ貸賃、一  
 年二十ポントヲ得ル者ニアラサレハ、誓士

トナルノ權利ヲ有スル能ハサルヲトセリ、  
 然ルニ儘此理ニ反スル論ヲ立ツル者アリ、其論  
 ニ據ルニ、誓士タル者ハ、法制ノ上ニ在テ、法制ヲ  
 自在ニ取捨行止スルノ全權ヲ握ル者ナリト云  
 フ、實ニ迷誤ノ甚、シキニ非スヤ、凡、法院ナル者ハ、  
 唯現立ノ法制ヲ司守シテ、偏ニ正義公直ノ旨ヲ  
 奉行スルノ外、他ノ職掌ヲ負フ者ニアラサス、誓士  
 ハ必、誓約ヲ以テ、此義務ヲ其心ニ銘スル者ナリ、  
 然ルニ誓士若、自、其處分ノ法ニ合セサルアル  
 ヲ知ルヲアラハ、焉、ソ信實ノ法院アリト為ス可



ケンヤ、○又佛國ノ法院ニ於テ、一暴論ヲ採用シ  
 テ、誓士ナル者ハ宜シク罪狀ヲ證左ヲ取ル可シ  
 ト云フノ規律ヲ遵守スルヲ要セス、唯其罪狀ノ  
 未タ分明ナラサル所ヲ追究スレハ、足レリトナ  
 ス、此事實際ニ於テ、殊ニ害アリ、但誓士ヲ設置セ  
 レ以来、之ヲシテ自由ニ判定セシムルトナリ  
 レヨリ、古昔唯法學者ノミヲ以テ、合議法院テリヒ  
 コルレヲ設立セシ世ニ於テ、偏ニ證左ヲ取ルノ  
 法ノミヲ墨守セシ風習、遂ニ全ク消滅セシハ、實  
 ニ誓士ヲ用フルノ利ト云フベク、且誓士始メテ

立チレ以来、罪犯人多クハ其罪ヲ掩フ能ハスレ  
 テ、皆其刑ニ服スルトナリシハ、各國共ニ實驗  
 ニ由テ知ル所ナリ、然レモ誓士ヲ用フル制度ノ  
 祖國ナル英、及亞米利加兩國ニ於テ、未ダ曾テ證左  
 ヲ取ルノ法(即罪アリト判定セシ所以ノ理ヲ被  
 告人ニ明白ニ知ラシムルノ法)ヲ以テ、全ク無用  
 ニ屬ストセレ論アルヲ聞カス、加之、此兩國ニ於  
 テハ、證左ヲ探索スルノ術ヲ講求スルニ、心ヲ用  
 エルヲ專旨トナシ、并ニ誓士ヲシテ、證左ニ注意  
 セシムルヲ以テ、法士ノ務ト為ス、○法士ナル者



ハ、決シテ自ラ被告者ヲ無罪トシテ、赦免スルヲ得ス、及之ヲ有罪トシテ、刑罰スルヲモ得ス、必スヤ誓士タル者ノ尋常平易ノ識見ニ由リ、判シテ有罪ト定メシ者ニアラサレハ、之ヲ刑スル能ハサルハ、即誓士法院ノ通則ナリ、去レ法士タル者正義公直ノ旨ヲ奉シ、且自ラ學習ノ浸漸ニ由リ、悟得セシ識見ヲ、誓士ニ告諭シ、以テ誓士ヲシテ之ヲ熟慮セシメ、及公正ニ判定セシムルハ、全ク其職掌ニシテ、之ヲ以テ不可トスルノ理ハ、決シテアル可ラス、○歐洲大地各國ニ於テハ、法士ノ權

常ニ強大ニ過キ、遂ニ誓士ノ判定ヲ用ヒス、敢テ自ラ恣ニ判定ヲ為スカ如キ弊害アルヲ免レス、是ヲ以テ、往々此弊害ヲ驅除センコトヲ論スル者アリ、實ニ誓士法院ノ制度ニ於テ、有益ノ論ト云フ可シ、去レ又審理ニ於テ、法學ニ熟達シレ法士ノ威權ヲ務テ抑壓シ、而テ誓士ヲシテ、縱ニ判定スルヲ得セシムルヲ以テ、此法院ノ本意タラシメント欲スルカ如キモ、亦司法ノ真理、及其尊嚴ナル所以ニ、全ク相戾ルト云フ可シ、既ニ論シタルカ如ク歐洲大地ノ各國ニ於テ、ス



ターツアーレンワルトノ官ヲ設立セシハ、全ク英國ノ制度ニ由ラサル者ナルカ、又誓士法院ノ制度モ亦大地各國ニ傳播セシ以來、二個ノ改正ヲ得タリ、即チ第一ハ英國ニ用フルアーレンカラゲ、  
 第二ハ、〔按英國ニハ、大小二種ノ誓士アリ、即チ大誓士ナリ、而テ大誓士アリト思フハ、預メ罪犯ノ景況ヲ探索シテ、實ニ罪アリト思フハ、之ヲ小誓士ニ送致スルヲ掌ル者ナリ、但シ小誓士ハ、テ廢シ、而テ別ニ法學者ノミヲ舉テ、アーレンカラゲセナリトナル者ヲ設立シ、預メ告訴ノ次第ヲ查問スルノ務ヲ以テ、之ニ授托スルノ法ヲ立テ、第二ニハ、英國ニ於

テハ、私法ノ意、今仍チ大ニ司法上ニ存スト雖、各地各國ニ於テハ、罪犯人ヲ追捕刑罰スル事ハ、漸ク國家ノ掌ル所トナリテ、今世ハ、司法上、絶エテ私法ノ意ノ存スルアルヲ見サルニ至レリ、

第五款

政務法事務

ハルワルツグスレヒツグレツグスレ

ニ係レル公權利ノ規律ヲ起セルト云、故ニ此公權利ニ就テ起セル諸事論ヲ裁断スルノ事務ヲ、政務法事務ト云、法院司ル所ノ私法、刑ト相異ナリ、

公權利ニ就テモ亦、爭論ノ生スルアリ、而テ此



時ニ於テハ國家其權ヲ以テ之ヲ裁斷セサル可  
 ラス、但今世ノ公法院（テハ）ハ、レトリヒ、レトリハ  
 院ヲハ、公法（テハ）權利ト認ス、取テ政務法（テハ）ヲ云、  
 於テ、僅ニ其數部分ヲ司ルノ權アリ、故ニ其過半  
 ハ、方今尚ホ未タ之ヲ司ル所ノ法院、并ニ制度アラ  
 ス、就中公法中ノ重要ナル部分ニ至リテハ、最モ  
 然リトス、實ニ公法事件ニ係リテ起レル諸爭論  
 入、悉皆裁斷スヘキ法院ヲ設立スルハ、恐ラクハ  
 後世始メテ能クスヘキノミ、  
 公法ノ事ニ係リテ起レル爭論ノ部類ハ、大略左

ニ舉ルカ如キ、

〔甲〕列國法ニ係レル爭論、列國ノ權利ニ係リテ、

其際ニ起レル爭論ヲ裁斷スルニ堪ユヘキ法院

ハ、今時尚ホ未タ之ヲアラサス、故ニ二國相爭フキニ於

テハ、儘調停裁判（レ）國相爭フ兩國ノ依（テ）局外中立ノ

中間ニ入テ裁（ス）ヲ施ス（ト）アレバ、必ス兩國綴議シ相

共ニ之ヲ請フニアラサレハ、此事決シテ行ハル

可ラス、其他（テ）グリセンゲリヒト（按）戰爭ノ際、敵艦

邪正曲直ヲ判定ノ如キハ、固ヨリ兩國ノ共議ス

ヘキ、當然ナルカ如シト雖モ、必ス獨、其本國（按）艦ヲ敵



捕撃スル者ノミ之ヲ裁斷スルナリ、

〔乙〕君位繼嗣ニ係レル爭論ノ如キモ、國事法院亦之ヲ裁斷スルノ權ナレ、而テ列國復之ヲ裁判スル權ヲ有セス、國家ノ大事執獨、能ク之ヲ裁斷スルナリ、凡、權執事業、兩ツナカラ全ク、舉國若クハ官司等ノ許可服従ヲ得ル者、遂ニ能ク君位ニ登ルヲ得ルハ、即チ勢ノ然ラレハル所ナリ、①

①〔按〕君位繼嗣ノトヨリ爭鬭ヲ生スルトアルハ、權執事業兩、ナカラ全クレテ、遂ニ全國ノ許可服従ヲ得ル者、自ラ勢ニ由テ、君位

ニ登ルヲ得、故ニ國家ノ大事執獨、能ク之ヲ裁斷スト云フナリ、

〔丙〕國憲可否ノトヨリ起レル爭論ノ如キモ、亦必ス法院ノ裁斷ヲ用フル能ハス、而テ或ハ政論黨ハノ分争、能ク之ヲ裁斷スルヲ得、〔按〕權ヲ得タル黨テ、國憲ヲ確定ス、故ニ分争之、或ハ兩院一政府ノヲ裁判スルヲ得ト云フナリ、商議ヲ以テ、之ヲ裁斷シ、又ハ憲法及ヒ上諭ヲ以テ、之ヲ裁斷スルヲ得ルナリ、獨、亞米利加合邦ニ於テハ、通例合邦法院（アンデマドリヒト）〔按〕合邦能ク此ノ如キ爭論ヲ裁斷スルノ權有リ、去レ此



國ニ於テモ、國家諸權柄ノ意互ヒニ相背反シテ、  
 全ク一致和同セサル時ニ於テハ、法院縱令其裁  
 斷ヲ施シテ、之ヲ行ハント欲スルモ、決シテ能ハ  
 サルナリ、蓋一千八百六十一年<sup>萬延</sup>ヨリ六十五  
 年<sup>慶應</sup>ニ至ル五年間、國內ノ大戦争、及其後ノ形  
 勢ヲ通視スレハ、此理自ラ明亮ナル可シ、○去<sup>レ</sup>凡  
 若、此ノ如キ争論アルニ方リ、徒ニ形貌上ノ正真  
 ナル法ニノミ遵テ裁斷スルキハ、其弊更ニ巨大  
 ニ至ル可シ、蓋自然ノ勢ニ合シ、且日々進歩スル  
 世態ニ適スル所ノ裁斷ハ、獨<sup>リ</sup>經綸ノ才識ヲ具フ

フル俊傑ニアラサレハ、決シテ為ス能ハサルナ  
 リ、  
 (丁)軍務ル<sup>ミ</sup>ワリテ<sup>ツ</sup>ル<sup>ヘ</sup>及ヒ(戊)警保務<sup>ル</sup>ワリ<sup>テ</sup>ハ  
 グ、ノ区域内ニ於テハ、其官司許多ノ法問ヲ判定  
 裁斷セサル可ラス、而テ此判定裁斷ヲ以テ、更ニ  
 法院ニ告訴スルヲ許サス、殊ニ此種ノ法問ハ、其  
 便宜ニ從テ、武官及ヒ警保官ノ事務ニ屬ス、蓋此  
 法問ハ、專ラ事ノ便益ト否トニ、緊切スルヲ以テ  
 ナリ、<sup>(按)</sup>唯正義公道ノ<sup>ミ</sup>例ハ、戦争ノ時ニ於テ、  
 軍隊俄ニ民人ノ交際ヲ阻攔シ、及其連合ヲ隔斷



或ハ大砲ヲ民家ニ發射シ、又ハ禾田ヲ蹂行ス  
 ル等諸件ノ實ニ緊要ナリヤ否ハ、皆專ラ軍事ニ  
 係レルヲナリ、去レ是等諸件モ亦必法ヲ以テ論  
 セサル可ラサルハ、固ヨリ當然ナリ、○又火災起  
 ルニ方リ、家屋ヲ毀壞シ、或ハ傳染病アルニ方リ  
 テ、患者ノ他人ト接遇スルヲ禁レ及ビ病獸ヲ屠殺  
 スル等、必行スヘキヤ否ヤハ、警保官タル者、專ラ  
 公衆ノ安寧ニ注意シテ、裁定スル所ナリ、去レ是  
 等ノ、其便益ト否トノミヲ以テ、論ス可キニア  
 ラス、亦必法ヲ以テ論セサル可ラサルハ、固ヨリ

當然ナリ、○斯法ノ區域ニ属スル裁定ヲ以テ法  
 院ニ托セス、却テ武官或ハ警保官ニ托スルハ、殊  
 ニ怪シム可キカ如シト雖モ、是等諸件ハ、必十分  
 嚴猛ノ権力ヲ以テ、處分セサル可ラス、故ニ之ヲ  
 單ニ武官若クハ警保官ニ托シテ、決シテ法院ヲ  
 レテ、之ニ關セシメサルナリ、若レ法院ヲシテ是等  
 諸件ニ關セシムルノ法ヲ立ルハ、兵權警保權  
 共ニ、遂ニ痿痺衰弊スルノ恐ナキ能ハス、  
 但レ右等ノ處分ニ由テ、武官及警保官等、若レ私人ニ  
 損害ヲ為セシカ為メニ、私人或ハ其償金ヲ乞フ



「ア」レハ、其請願ノ當否曲直如何ヲ判定スルハ、固ヨリ私法院ノ職掌ナル可ク、又右等處分ヲ為スノ時ニ於テ、警保官ノ施シタル警保刑（ボリト）ヲ「（按）」（即チ）警保官ノ施スヘキ刑罰ヲ云、ノ當否ヲ判定スル「（ボリト）」必要ナルキ、之ヲ判定スルハ、固ヨリ刑法院ノ職掌タル「（ボリト）」辨ヲ俟タス、

「（イ）」元來諸官司ノ設立スル所ニシテ、且、其管轄ニ屬スル公法モ、亦殊ニ許多アリ、故ニ此公法ヨリ起レル爭論ハ、必ス其諸官司ニ於テ、之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ、選擇權利（レヒト）ニ係レル爭

論ノ如キハ、或ハ此權利ノ規律ヲ設立セル上官之ヲ裁斷シ、或ハ選擇セラル、徒、兩院ノ如キ是レナリ）之ヲ裁斷ス、其他總テ下等諸官吏ノ職掌ニ就テ、爭訟起ルキハ、乃、其上官之ヲ判決ス、佛國ニ於テハ、狹義ノ政務法（レヒト）、イム、エングス（レヒト）、ト稱スル者ノ區域ヲ、前條舉ル所ノ公法（按）「（即チ）」（イ）ノ條ニヨリ、復々區分シテ、別種ノ者トナシ、而シテ此法ニ係レル事務ヲ舉ゲテ、全ク別個ノ法院ニ委託セリ、近世各國復之ニ倣ノ者多シ、○狹義政務法ノ區域ハ、殊ニ宛カモ會社若クハ







職官ヲ奉承スルノ義務、（按）公務諸職官中ニ就テ、各人必奉承セサル可ラサル者アリ、卷之七軍事ニ役事スルノ義務、及、公衆利益ノ為メニ、私有ヲ放與スル等是ナリ、  
 狹義政務法ノ區域ハ從來甚狹少ナリト雖、固ヨリ廣濶ニナシ得可ク、加之之ヲ廣濶ニスル、甚緊要ナリ、○但、從來政務官獨、狹義ノ政務法ヲ司ルノ全權ヲ有シテ、決シテ法院ノ監察ヲ受クルヲアラサリシカ、此全權近今次第ニ滅絶スルノ時至レリ、  
 政務法事務ノ良善ナルヲ庶希セハ必之ヲ別種

ノ法院ニ委託シ、且、別種特別ノ審理規律ヲ設ク、之ニ由テ、審理セシムルヲ最要トス、佛國ノ政務法ハ、頗ル完備シ、且、其規則明亮確實ナルヲ、大ニ他各國ニ超越ス、蓋、政務法ヲ司レル法院ノ編制、殊ニ宜シキヲ得ルカ為ノナリ、  
 方今獨乙各國ノ如キハ、政務官直ニ此法ヲ司ルカ故ニ、公權ヲ有スル會社、及、私人ヲ保護スル、全ク十分ナラス、且、動モスレハ、政務官私意ヲ以テ、處分スル等ノ弊害アリ、○然ルニ、若、元來私法ノミヲ司レル訴訟法士ヲシテ、兼テ政務法ヲ司



ラシムレハ、必ス二個ノ弊害ヲ生スヘシ、何者、此法士ハ、政務法ニ係レル事ノ實ニ公事ナル所以ニ注思セズシテ、動モスレハ、徒ニ私法ノ規律ヲ遵守シ、誤リテ公事ヲ害シ、或ハ此法士、政務法事務ニ於テ、必要ナル自由ノ思慮考按ヲ取テ、遂ニ之ヲ其本務ナル訴訟事務上ニ移シ、以テ訴訟事務ヲ害スルノ患アレハナリ、○

○〔按〕訴訟審理ノ如キハ、偏ニ法ヲノミ、遵守スヘキヲ當然ナレバ、政務法ニ係レル審理ニ至リテハ、素法ヲノミ、遵守スヘキニアラ

ス、必ス其事ノ便益ナルト否トヲモ、併セテ注思セサル可ラス、故ニ此審理ヲ掌レル法士ニハ、必ス自由ニ思慮考按スルヲ許ス、甚緊要ナリ、然ルニ訴訟法士ヲシテ、政務法ニ係レル審理ヲモ兼掌セシムルハ、自ラ之ニ習慣シテ、知ラス覺ヘス、訴訟審理上ニモ、亦自由ノ思慮考按ヲ施スノ恐ナキ能ハサルナリ、

政務法院グヘルワルツシノ編制ニ就テモ、其法ニ通曉セル官吏ト、及民間ノ私人トヲ合スルハ、



大イニ益アリ、殊ニ初等法院〔按〕下等ニ於テハ、最モ然リトス、佛國ニ於テハ、〔按〕プレヘクト〔按〕即チ官ナル者、此法院ノ首領ニシテ、民間ノ私人數輩、プレヘクツールラート〔按〕商議トナリテ之ニ列ス、又大公爵國ゴロツリス、ナルバルデンニ於テハ、官吏ナルベチルクサントマント、民間ノ私人ナルベチルクスラート〔按〕即チ商議ト相合シテ、政務法事務ヲ掌ル、○但上等法院ノ如キハ、佛國ニ於テハ、議政官スタリツラートト、〔按〕卷ノ分課ヲ以テ、之ニ充テ、又バーデンニ於テハ、別ニ一種ノ政務法

院〔按〕即チ上ヲ設置ス、

第六款

司法ノ疆域、デヒツ、ゲレンツ、ゲル、ゲ

○政務法ニ屬スル爭論、ヘル、ワ、ス、

近令ニ及ヒテハ、政府ト法院ヲ區分シテ、法院ハ政府ノ管内ニ歸セサルヲ以テ、良制度ト為シ、且政府自由ニ、其能力ヲ及ボス所ノ區域ト、法院ノ其務メヲ施設スヘキ區域トヲ、嚴ニ分畫スルヲ甚切要ナリトスルニ至レリ、然ルニ太古及中古ニ







ニ公衆ノ安寧ヲ增益スルノ事ニ至テハ、一モ遺策ナク、悉ク之ヲ遂ケント欲ス、故ニ一個人アリテ、苟クモ其權利ヲ主張シ、政府ノ命令ニ抗スル片、及ヒ法院亦此一個人ノ權利ヲ保護セント欲スル片ハ、乃直ニ斥レ、以テ國家ノ威嚴ヲ侮瀆シ、其權力ヲ阻攔スルノ所行ト視做シ、常ニ嚴ニ之ヲ禁セント欲ス、○又法院ノ徒ノ通見ハ、凡、法ニ係レル諸争訟ハ、全ク法院ノ裁斷ニ屬スヘキ者ニシテ、而レテ政務官ノ裁斷ニ屬スヘキ争訟ハ、罕ニ之アリト為ス、是ヲ以テ此徒動モスレハ、一個人

ノ縱ニ政權ニ抗爭シテ、其施行ヲ阻攔シ、及ヒ此權ノ區域ヲ減縮セント欲スルノ非理ニ屬スル所以ヲ忘失シ、及ヒ政府ノ區域モ、亦法院ノ區域ノ如ク、常ニ確定スル者ニシテ、此區域ハ議論生シテ、而後ニ始テ生スル者ニアラサル所以ヲモ忘失ス、然ルニ政府ノ徒ハ、之ニ反シテ、常ニ謂ラク、苟モ國家ニ關セルトハ、政務官獨專ラ之ヲ裁斷スヘキト、固ヨリ當然ニシテ、唯罕ニ之ヲ法院ニ托スルトアルノミト、○以上諸論皆非ナリ、凡、法院及ヒ政府ノ裁斷共ニ、必、常ニ確定スル所ノ區域ア



リテ、各之ヲ確守スヘキ者ナルカ故ニ、互ニ他ノ職掌ヲ以テ、唯罕ニ之アリトナスカ如キハ、甚タ不可ナリ、元來政府ト法院ト、相岐分スル所以ノ理勢ニ注意シ、及其本性ノ全ク相異ナル所以ノ理趣ニ著眼シテ熟思スル片ハ、其區域相分カル、所以ノ理モ、亦當ニ明亮ナル可シ、備國ニ於テハ一千七百八十九年寛政元年顛覆起ルニ方リテ、法院ノ掌ルヘキ裁斷ト、政務官ノ掌ルヘキ裁斷トヲ以テ、全ク相分割シタリ、此國ハ從來司法議院パダリヒトトヘキ、ナル者、政務官ノ掌ルヘキ裁斷

ニ參預スルノ制アリシカ、此顛覆ノ際ニ至リ、國家從來ノ制度ヲ全ク破壊シ、更ニ之ヲ一新スルヲ以テ至急ノ務トナシ、加之、公衆ノ安寧ヲ謀ルヲ以テ至高ノ法トスルノ論、更ニ其間ニ生スルニ隨ヒ、此制ヲ以テ、愈有害ノ者トナスニ至レリ、是ニ於テ顛覆黨ノ暴威ヲ以テ、法院ノ過強權ヲ挫折スルノ勢力非常ニ増加シ、遂ニ一千七百九十年寛政二年ニ於テ、左ノ憲法ヲ示令セリ、曰ク「政務ノ處分、縱令如何ナルモ、法士敢テ之ヲ障礙スルヲ許サス、且、政務官吏ツ奉務、縱令如何ナルモ、決



シテ之ヲ法院ニ名スヲ許サスト、○是ニ於テ許  
 多ノ獄訟ヲ舉テ、政務官ノ裁斷ニ歸シ、及ヒ實ニ  
 法院ノ管轄ニ屬スヘキヲモ、之ヲ法院ヨリ奪  
 ヒ、以テ政務官ノ裁斷ニ托スルニ至レリ、且、那破  
 倫（世第一）亦法院ヲ以テ、政令ノ大障礙タル者ト  
 シ、愈、法院ノ權カヲ減損シ、以テ政務官ノ權カヲ  
 増大セシカ故ニ、政務官ノ掌ル裁斷ノ區域、遂ニ  
 頗ル寬宏トナレリ、○然ルニ獨乙ニ於テハ其法  
 學ノ旨、殊ニ私權利ヲ敬重スルヲ主ト為スカ故  
 ニ、憲法ノ制立、及、實地ノ處分共ニ、其為ス所、全ク

佛國ト相反セリ、而テ人民ノ權利、及其自由ノ權  
 ハ、法院ノ管轄ニ屬セシムルハ、大ニ堅確ヲ得  
 ルカ故ニ、愈、法院ノ權カヲ盛大ニ為スニ至レリ、  
 蓋、良好ノ處置ト云フ可シ、去、此、事又甚々シキ  
 ニ過キ、實ニ國家ノ權ヲ以テ、裁斷セサル可ラサ  
 ル事件ヲモ、併セテ法院ノ管轄ニ歸シケレハ、遂  
 ニ大ニ政府ノ權ヲ減削スルニ至レリ、是、即、法院  
 ノ權ノ微弱トナルヲ矯メント欲シテ、遂ニ又政  
 府ノ權ノ屈撓セシメシナリ、  
 凡、政府ハ公衆ノ安寧ヲ保持シ、及、之ヲ增長スル



ヲ以テ、其主務トナシ、法院ハ國內一個人(私人)ノ上ニ在テ、國家ノ正義公直ノ旨ヲ施行スルヲ以テ、其主務ト為ス者ナリ、是故ニ政府ノ議判指令ハ、其旨常ニ國家公衆ノ為メニスルヲ歸ト為シ、法院ハ殊ニ私人ノ私權利ニ屬スル者(私法)ヲ保護シ、及ヒ不正ノ所行ヲ為セル一個人アルニ方リテハ、必ズ之ヲ刑シ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ著ス(刑法)ヲ以テ本旨ト為ス、故ニ法院ノ職掌ハ、必ズ私人ニ對向スル者ナリ、今更ニ他ノ語言ヲ以テ、政府ノ職掌ト、法院ノ職掌ト相異ナル要旨ヲ

述ヘン、凡、國家ノ法ニ係レルトハ、政府宜シク之ヲ掌ル可ク、又私人ノ法ニ係レルトハ、法院宜シク之ヲ掌ル可シ、○國家ノ法ニ係レルトハ、必ズ公衆ノ安寧ニ著意スルノ緊要ナル所以ヲ失フ可ラス、從來ノ法ハ、通例唯政令ノ規律限制ナルノミ、故ニ決シテ其政令ノ精神ト稱スルニ足ラス、(按)法ハ唯規律限制ナルノミ、故ニ唯法ニ由ルモ、決シテ公衆ノ安寧ヲ謀ルニ足ラヌト云フノ意歟、又私人ノ權利ハ、偏ニ正義公直ノ旨ニ由テ、判定スルヲ貴フ、若、此權利ノ判定ニ就テ、兼テ亦公衆ノ安寧ニ著意スルハ、却テ害アリ、(按)公衆ノ安寧ニ著



意スル片ハ、縦令<sub>レ</sub>決<sub>シ</sub>テ正義公直ヲ傷ハサル所  
 行モ、或ハ有罪ト為リ、ル可<sub>レ</sub>ラサルアリ、故ニ  
 害アリト<sub>レ</sub>、是即<sub>チ</sub>真誠ナル國法〔按〕博ク國法ト云フ  
 其中ニ在リ〔按〕真誠ノ國法ト云フ、政務法、刑法、亦  
 ハ、真誠ナル政務法、及ヒ刑法ヲ除クナリ、性ト  
 私法、刑法ノ性ト、全ク相異ナル所以ナリ、○唯真  
 誠ナル政務法〔第五款〕ヲ參看ス可<sub>レ</sub>シ〔按〕第五款〔包〕  
〔按〕義ノ政務法トノ如キハ、私刑兩法ノ中間ニ位  
 シテ、此兩區域ニ關涉スル者ナリ、何者、公法〔按〕即  
〔按〕云、ト、及ヒ公衆ノ安寧トニ、兼テ著眼スルトハ、一  
 個人ノ身上ニ在テモ、決レテ矛盾スル所ナク、并  
 ニ公衆ノ為メニモ、亦決レテ害ナキカ故ニ、政務

法ノ判定ニ就テハ、先規<sub>レ</sub>律、憲法〔按〕私法及ヒ刑ニ  
 著意シ、而テ後公衆ノ安寧ニ著意スルヲ以テ、甚  
 緊要トナセハ、ナリ〔按〕是即、政務法ノ國法及ヒ私  
〔按〕法、刑法ノ中間ニ位スル所以  
 ナ  
 前條論スル所ノ原則ヨリ、左ニ舉クル數件ノ規  
 律ヲ生ス、  
 第一 國家ノ高尊ナル權利〔按〕ハ、決シテ法  
 院ノ管内ニ屬スル者ニアラス、故ニ高尊權利ニ  
 係レル爭論ノ如キ、凡、其當然ノ區域内ニ屬スル  
 者ハ、必<sub>ズ</sub>政務官之ヲ裁斷スルノ權アリ、例ヘハ警

三十四  
 卷八下  
 國法源論



保權兵權及其他諸權柄ノ如キ、其當然ノ區域内ニ於テハ、決シテ法院ニ属スルヲナシ、故ニ法院ハ止一個人ニ對シテハ、能ク其權ヲ施行スト雖モ、以上諸權柄ニ對シ、決シテ其大權ヲ施行スル能ハサルナリ、○是故ニ政府ハ其政權ヲ施行スルニ於テ、決シテ法院ノ權威ヲ為メニ、阻攔セラズ、者ニアラス、政府ノ指令スル事ノ正ト不正ト、及要ト不要ト、或ハ其處分ノ公ト不公ト、及當ト不當トニ至テハ、政府自ラ之ヲ裁定スルト當然ナル可ク、法院モ亦其職掌區域内ノ事ニ於テ

ハ、自ラ之ヲ裁定スルト、全ク政府ニ異ナラサル可シ、○國家ノ諸權柄ニ係レル爭論アルニ方リテ、一個人若シ此制度（按）政府決レテ法院ノ管下（按）屬セズ、法院亦政府ノ管下（按）屬スル所ヲ拒ムカ為メニ、法院遂ニ警保權（按）及兵權ノ處分ヲ阻攔スルニ至ルトアルハ、政府ハ唯其當然ノ區域内ニ於テスラ、尚法院ノ管下ニ在ルカ如クナリテ、其權力之カ為ニ減削セラレ、殆ト其要務ヲ施ス能ハサルニ至ルハ必然ナリ、  
 [甲]然ルニ此常法外ノ事、復緊切トナルトアリ、例

國法論

卷八下

三五

收



ハ、其爭論ハ、法院ノ裁斷スヘキ所ナルヤ、若クハ何レノ法院ノ裁斷ニ任スヘキヤ、之ヲ判決スルハ、全ク國法ニ係レル處分トス可キ決ニテ私法ニ係レル處分ト為ス可ラス、何者此ノ如キ定法ハ、全ク國憲ニ由ルヲ以テナリ、○但法院若獨立ノ權アラサレハ、國家ノ正義公直ノ旨ヲ司ル、甚々難キヲ以テ、獨政府ノ手ヲ假ラス、自己ノ職掌區域ヲ確定シ、而テ此區域内ニ於テハ、十分ニ自己ノ權力ヲ用フル、甚々緊要ナリ、是故ニ此ニ權柄（按）政府ト法各自己ノ意ニ隨テ、其區域ヲ

畫定スルノ權力ヲ有ス、是故ニ時アリテハ、政府ト法院ト、其職掌區域ニ就テ、互ヒニ爭フコトアリ、令一事起ルニ方リ、政府ハ以為ヘラク、此事ニ就テ緊要ナル指令ヲ施シ且、此ヨリ起レル爭論ヲ裁斷スルハ、全ク自己ノ本務ナリト、然ルニ法院ハ又以為ヘラク、此爭論ハ已審理ノ規律ヲ以テ、判定ス可キコト當然ナリト、政府法院斯互ニ其職掌ニ就テ相爭フコトアリ、之ヲ職掌ニ係レル陽争（ボシチヘ、ロハベテト）云フ、或ハ又一事裁斷スヘキコト起ルニ方リ、政府



法院各其裁斷ヲ以テ、當ニ自己ノ掌ルヘキ者ニ  
 アラストトヒ、互ニ相推諉スルコトアリ、之ヲ職掌ニ  
 係レル陰争子ガチニシテ、コトベテト云フ、  
 然ルニ政府法院ハ、併ニ獨立自行スル者ナルカ  
 故ニ、互ニ此ノ如キ争論ヲ裁判スルノ權ナレ、是  
 故ニ國憲ニ隨テ、此争論ヲ裁判セント欲セハ、必  
 別種ノ一大權アリテ、之ニ臨マサル可ラス、而テ  
 此一大權ハ、必此ニ權ノ上ニ位レテ、絶エテ拘制  
 セラレサル者ニアラサレハ、決レテ能ハス、今若  
 此一大權ヲ以テ、立法府ニ托スレハ、甚益アルカ

如レト雖、元來此類ノ裁判ハ、後來ノ定則トナ  
 ルヘキ者ヲ設定スルニアラサルカ故ニ、當然立  
 法府ノ掌ルヘキニアラス、何者、通例立法府ハ、時  
 ニ臨ミ事ニ應レテ、實際ニ切要ナルコトヲ察分ス  
 ヘキ者ニアラス、且此ノ如キ争論ニ至テハ、多ク  
 ハ事態錯綜セル者ナレハ、能ク其情實ヲ探索シ  
 テ、判定ヲ施スカ如キハ、決レテ立法府大會ノ為  
 ニ得可キ所ニアラサレハナリ、○國家元首ハ、諸  
 國權相聚合會同スル所ノ尖頭ナルヲ以テ、此ノ  
 如キ裁斷ヲ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリト云フ



可シ、去レ、凡若<sub>レ</sub>ニニステルヲシテ、之ニ參預セシムル  
 ルキハ、ミニステルハ即<sub>チ</sub>政府ノ長官ナルヲ以テ、  
 現ニ相争競スル兩權ノ一ナル政府ヲシテ、其争  
 論ヲ裁斷セシムルノ理ナリ、而<sub>レ</sub>テ政府ノ權、此ノ  
 如ク偏重トナルキハ、法院有スル所ノ獨立自行  
 ノ權、并ニ決<sub>レ</sub>テ拘制セラレサル者、宜ク裁斷ス  
 可シト云フノ規律、共ニ全ク有名無實ニ歸スル  
 ニ至ル、○是故ニニニステルヲシテ、國家元首ノ  
 裁斷ニ參預セシムル規律ヲ用ヒス、或ハ議政官  
 〔此官ハ能ク事ニ老練スル者ニシテ、且、日常ノ政

令ニ關係セサル者ナルカ故ニ、裁斷上ニ於テ、能  
 ク公正至當ノ處分ヲ為スニ足ル必然ナリ〕ヲシ  
 テ、元首ノ裁斷ヲ匡輔セシメ、或ハ政官ト法士ト  
 ヲ合シテ、一局ヲ設ケ、以テ元首ノ裁斷ヲ匡輔セ  
 レムルキハ、政府ノ權偏重トナリテ、遂ニ法院ノ  
 獨立自行ヲ妨害スル等ノ患アル可ラス、  
 〔乙〕ヒスクス<sub>ノ</sub>〔按〕國家ノ事ヨリ争訟起ルニ方リテ、  
 法院之ヲ裁斷スルノ法モ、亦常法外ニ屬スルカ  
 如シ、〔按〕前第一<sub>ニ</sub>國家ノ高尊ナル權利ハ、決<sub>レ</sub>テ  
 法院ノ管轄ニ屬セス云々ノ常法ニ屬セラルテ  
 カ如シト意、去レ、凡國家ノ所有ハ、素私法ニ屬セル者  
 云フノ意、去レ、凡國家ノ所有ハ、素私法ニ屬セル者



ニシテ、絶テ公法ニ係レル者ニアラサレハ、此法  
 決シテ實ニ常法外ニ属スト云フ可ラス、凡、國家  
 タリ、其所有ニ就テ見ルハ、全ク一個ノ私人  
 ト相異ナラス、國家果シテ一個ノ私人タルハ、  
 真ノ私人ト同シク、法院ノ管下ニ属シテ、其裁斷  
 フ受クヘキ、固ヨリ當然ニシテ、決シテ法院ト  
 相並立スルノ權ナシ、  
 但、國家所有ニ係レル權利ハ、概シテヒスヨクスノ  
 法〔私法〕ヲ以テ論スヘシト云フニハアラス、國家  
 其臣民ヨリ取ル所ノ租稅ノ如キニ至テハ、實ニ

私人ノ所有ヨリ出ル者ニシテ、全ク錢財ニ係ル  
 カ故ニ、此公權利（按即租稅ノ權利）ノ如キハ、通常ノ諸  
 公權利ト異ナル所アルハ、固ヨリ辨ラ俟タス、去  
 凡、國家其臣民ヨリ租稅ヲ取ルノ權利ハ、債主ノ  
 負債者ニ對セル私權利トハ、全ク異ニシテ、國家  
 實ニ臣民ノ上ニ在テ、施行スル所ノ權柄ナリ、是  
 故ニ租稅收取ノトニ就テハ、國家ハ全ク上ニ在  
 リテ、十分ニ臣民ヲ馭スルノ權利ヲ握ル、決シテ  
 臣民ト並立シ、其對手トナリテ、法院ノ裁判ヲ受  
 クルノ理アル可ラス、○是故ニ或ハ租稅收取ノ



規律公正至當ナリヤ否或ハ臣民中某品位宜シク納税ノ義務ヲ負フハキヤ否或ハ私人所有ノ中ニ就テ、此種類ニ租税ヲ命スヘキヤ、將彼種類ニ租税ヲ命スヘキヤ等ノ一、若決定レカタクキキニ臨ミ、之ヲ裁判スルハ、決シテ私法ノ事務ニアラス、全ク公法ノ事務ナリ、故ニ政務官宜ク之ヲ裁判スヘキ、固ヨリ當然ト云フ可シ、政務法官之ヲ裁判スレハ、更ニ良シトス。○政府或ハ取税ノ權利ヲ恣行シテ、虐政ヲ施シ、遂ニ臣民ヲ困シムルノ恐れアルヲ以テ、租税ノ規律ヲ設定スルノ

初、預メ<sup>（按）</sup>即チ若クハ民間ニ於テ、其事ニ練熟セル者ヲ選テ、共ニ之ヲ商議セシムレハ、則チ大ニ善トス、但、又租税ニ係レル争訟ト雖、或ハ又私法事務ニ属シテ、其官ノ判定ニ從フヘキ者ナリ、即チ其争訟、租税ノ理、及其收取ノ規律ニ關係ナク、<sup>（即チ）</sup>其争訟、國家取税ノ權柄上ニ關セズ、唯一私人ノ所有物上ニ就キ、實ニ租税ヲ命スルニ足ルヤ否、判決スルノ緊要ナルキニ於テハ、訴訟法士之ヲ掌ルノ當然ナル例ハ、一私人或ハ自ラ論シテ、吾



カ所有品ハ、一ツモ租税ヲ納ムヘキ品種ニアラス  
ト云ヒ、或ハ吾ハ貧ウシテ、未タ租税ヲ納ムルニ  
足ルヘキ所有アラスト云ヒ、以テ納税ノ義務ヲ  
免レント欲スル片ノ如キハ、其論私法ノ事ニ係  
ルヲ以テ、必、法院ヲシテ之ヲ判決セシメサル可  
ラサルナリ、○但或ハ私人縱ニ自論ヲ主張シ、以  
テ大ニ國家取税ノ權ヲ侮瀆スルニ至ルノ恐ナ  
キ能ハサルヲ以テ、必、別ニ此事ヲ判決スルニ適  
當セル審理規律ヲ設立シ、以テ國家ノ取税權ヲ  
保護スルハ、實ニ緊要ナリト雖、此等ノトヨリ

起レル争訟ヲ判決スルハ、決シテ國法ニ属セサ  
ルヲ以テ、全ク法院ノ掌ルヘキト固ヨリ當然ナ  
リ、  
〔丙〕又警保官其處分ヲ私法上ニ施シ、以テ私權利  
ノ自由ヲ限制スルトアリ、但、警保官ノ處分ヲ為  
スニ於テ、能ク憲法ニ遵フヤ否、或ハ其規律ヲ守  
ルヤ否、又ハ其處分ノ事理實ニ緊要ニシテ、且、公  
正ナリヤ否等ノトハ、全ク國家ノ公權利ニ係レ  
ル事ニシテ、私法ニ属セサルカ故ニ、是等ノトヨ  
リ起レル争訟ヲ判決スルハ、決シテ法院ノ掌ル







權利ヲ授與セラレタル私人ト、他ノ一私人トノ際ニ、權利ノ爭論生スルキハ、法院必之ヲ裁判スル。○即チレガリテト〔按〕政府造幣、驛諸種ノイヲ掌ルノ特權ナリ、ヨリ出テ、政府ニ卷之十第三款ヲ參看スヘシ、其私權利トシテ、授托セラレタル諸種ノ權利、殊ニ此區域ニ屬ス、其他國家時アリ、一個人ニ特權ヲ授與シテ、一種ノ公義務ヲ赦免スルアリ、即チイム、ニテト〔按〕兵事ニ役仕シ、或ハ職官ヲ奉務スル等ノ義務ヲ免カル、自由ヲ及、納稅ノ自由、納稅ノ義務ヲ免カル、自由ヲ云、亦此區域ニ屬ス、

中古レヘンスレステム〔按〕封建ノアリシ世ニ於テハ、總テ公權利ト私權利ヲ混淆セシカ故ニ、

國家ノ高尊權利ヲ以テ、屢私人ニ授與スルアリキ、然ルニ輓近ハ、大ニ此二權利ヲ分チ、真誠ノ私權利ヲ以テ、全ク私人ノ權利ト為スヲ貴ヒ、而テ總テ國家ノ高尊權利ニ係レルトハ、終始國家ノ掌中ニ在リテ、私人ノ手ニ移傳セサルヲ貴フニ至レリ、是故ニ今時ハ此ノ如キ規律〔按〕國家ノ權利ヲ私人ニ授用フルノ區域、大ニ減縮セリ、

第三真誠國法ノ區域ハ、決レテ私法院ノ管轄ニ



属セサルカ如ク、私法ノ闔域ハ、又決シテ政府ノ  
 管轄ニ属セス、全ク私法院ノ管轄ニ属スルナリ、  
 凡、私法ノ區域ニ属セルトニ就テ、争論起ルニ方  
 リテハ、全ク正義公直ノ旨ニ由テ、之ヲ裁判ス可  
 シ、決シテ、國家ノ意旨ヲ以テ、之ヲ裁判スルヲ許  
 ス可ラス、何者、私法ノ事ハ、絶テ國家ニ属セス、唯  
 私人ニ属スル者ニシテ、國家ハ唯私人ヲシテ、其  
 權利ヲ保有セシムルノ務メヲ負フノミナレハ  
 ナリ、  
 素實ニ私法ニ属スヘキヲ、明亮ナル者ト雖モ、時

アリ疑惑ノ生スルトアリ、宜レク考思セサル可  
 ラス、即、茲ニ一個人アリ、他人若クハ國家ヨリ償  
 金ヲ取ルノ權利有テ、之ヲ要求スルカ如キハ、全  
 ク私法ニ属スヘキヲ、其理其事ニ於テ、全ク瞭然  
 タリ、敢テ辨ヲ費スヲ要セス、是故ニ之ヲ判定シ  
 テ、其曲直ヲ決スルハ、必、私法院ノ掌ルヘキト當  
 然ナリ、○私人償金ヲ要求スルノ曲直ハ、判定ヲ  
 施スニ於テ、最モ著意セサル可ラサル所ナリ、去  
 凡、法院此判定ヲ掌ルト、當然ナルヤ、將政府之ヲ  
 掌リテ當然ナルヤト云ヘルトニ就テ、議論ノ生



スルヲナキニアラス、例ヘハ、政府私人ノ租税ヲ  
 徴スニ、或ハ憲法ノ規律ニ由ラス、又警保官或ハ  
 恣ニ私人ノ工業ヲ障碍シ之ヲレテ損失ヲ蒙ラ  
 シムルヲアルヲ以テ、私人政府ニ要シテ其ヒス  
 クス〔按〕政府ノヨリ償金ヲ取ラント欲スル片、若  
 クハ一個人其身官吏ニ列スルヲ以テ、他ノ一個  
 人ニ對シテ、不正ノ所行ヲナシ、以テ之ニ損害ヲ  
 與フルカ故ニ、乙ノ一個人〔按〕損害ヲ受  
 人〔按〕損害ヲ與ニ對シ、償金ヲ要求スル片ノ如キ  
 兩件アルニ方リテハ、之ヲ法院ノ判定ニ任スル

當然ナルヘキヤ、將政府ノ判定ニ任スル當然ナ  
 ルヘキヤ、○或ハ此ノ如キ時ニ於テ、若シ法院ノ  
 職域ヲ傷ハサラント欲シテ、專ラ之カ為ニ謀ル  
 片ハ、自ラ政府ノ職域ニ害ナキ能ハサルニ非ス  
 ヤ、或ハ又此ノ如キ判定ヲ以テ、專ラ政府ノ職掌  
 トナシ、法院ニ托セシテ、全ク政府ニ托スル片  
 ハ、凡、何等ノ一ヲ以テ、定メテ法院ノ判定スヘキ  
 一ト為スヘキヤ、○凡、此ノ如キ諸論起ル片ハ、政  
 府及法院ノ職域、遂ニ至當ヲ失ハントスルノ恐  
 アリ、何者、或ハ法士ノ議論ニ由テ、私人ノ為ニ謀



リ、務テ法院ノ職域ヲ寬濶ニナサント欲シ、或ハ  
 憲法ヲ制立シ、或ハ議論ノ可否ヲ裁定シテ、當然  
 法院ニ屬スヘキ職掌ヲモ、尚奪フニ至ルヲア  
 ハナリ、  
 前條論スル所ノ如キハ、純乎タル私權利、純乎  
 タル公權利ト、交互關係シテ、宛モ原因ト成果ト  
 ノ如クナルカ故ニ、遂ニ此ノ如キ紛論生スルニ  
 至ルナリ、去氏私權利ニ屬セルトハ、法院必之ヲ  
 裁判シ、公權利ニ屬セルトハ、政府必之ヲ裁判ス  
 ヘキヲ以テ、當然ノ原則トナスヲ、常ニ忘失セス

シテ、之ニ謹遵スルハ、此論ヲ決スル、益甚難キ  
 ニアラス、凡、私人ヒスクスヨリ償金ヲ取ラント  
 要スルハ、ヒスクスハ必私法院ノ裁判ヲ受  
 クヘキヲ、固ヨリ當然ナリ、按ヒスクスハ、國家ニ  
屬スル物ト雖モ、唯是  
國家ノ私有ニシテ、殆私人ノ  
所有ト相同レケルハナリ、 縱令私人ヒスクス  
 ノ為ニ、損失ヲ受ケン時ニアラスト雖モ亦然リ  
 トス、其他一私人、他ノ私人ヨリ償金ヲ要求セラ  
 ル、其ハ、亦必私法院ノ裁判ヲ受クヘキヲ、固ヨ  
 リ當然ナリ、縱令一私人官吏ニ列スルモ、雖モ  
 亦然リ、○但、私人訴訟ヲ以テ、償金ヲ要求セント



欲スル時ト雖、若、被告者ノ所行、故ヲラニ私人ノ私權利ヲ毀損セシニアラス、被告者唯政府ノ官吏ナルヲ以テ、特ニ私人ニ對シテ、其職官當然ノ權柄（按職官ニ就テ、授与ヲ施行セシテ、審理ノ時ニ於テ、明瞭トナル片ハ、是等ノ一ハ、通例容易ニ明瞭トナルナリ）決シテ原告者ニ償金ヲ與フルノ理ナキヲ以テ、此ノ如キ訴訟ハ、總テ之ヲ點ク可シ、然ルニ若、官吏或ハ誤リ或ハ故ラニ其職權ノ區域ヲ超過シテ、私人ノ私權利ヲ毀損セシテ、審理ニ於テ明瞭トナル片ハ、私法院務メテ原告

者ヲ保護シ、其毀損セラレタル私權利ヲ回復セシメ、而テ原告者ヲシテ、被告者ヨリ相當ノ償金ヲ取ラシムルノ權利ヲ有シ、且、其義務ヲ負フナリ、凡、此ノ如キ片ニ臨ミテハ、法士必、唯私法ニ就キ、及、私法ニ依テ、判定スルナリ、○然ルニ又時トシテ一私人ノ所行ヲ判定シテ、或ハ私法ニ背戾セラル所行ト為ス者アリ、或ハ唯公權利ノ施行（按私背戾セル所行ニアラス、實ニトナス者アリテ、其公權利ノ施行ト為スナリ、）判定ニ種ニ分カル、一ナキニアラス、而テ此ノ如キ一ヲ判決スルハ、固ヨリ政府ノ職掌ナレハ、



其判決ノ權、宜シク政府ノ掌中ニ有ル可シ、即是  
 法院ノ職權ハ、必、法院ノ掌中ニ有ル可キト、全ク  
 同一理ナリ、○此ノ如キ争論ハ、兩私人ノ間ニ起  
 ラス、却テ政府ト法院トノ間ニ起ル者ナレバ、必、  
 争論審理〔按〕争論スルノ當否ヲ以テ、之ヲ裁判ス可  
 シ、去、此裁判タルマ、常理ニ於テハ決シテ難キ  
 ニアラス、凡、此ノ如キヲ裁判スルハ、必、政府ノ  
 職掌ナレハ、政務官若クハ政務法院ヲシテ之ヲ  
 掌ラシムヘシ、私法院ハ此裁判ニ預ルヲ得サル、  
 固ヨリ當然ナリ、但、時アリ政務官ノ專恣ヲ預防

セシガ為ニ、憲法ヲ以テ常法外ノ處分ヲ為ス  
 アルハ、此限ニアラストス、

〔第四〕

國家ニ属セル權利ハ、國家之ヲ施行スルヲ

以テ通則トス、去、此其中ニ就テ、一個人ニ属セル  
 公權利、及、一個人ノ意ニ任セテ行止スヘキ公權  
 利〔即〕兼テ公義務ヲササル者ヲ云フノ如キハ、此  
 通則ヲ以テ概論ス可ラサル者ナリ、故ニ此類ノ  
 公權利ハ、次第ニ私權利ニ近似スル者ト云フ可  
 シ、  
 例ハ、第一類ノ公權利〔按〕前條一個人ニ属セト  
 ル公權利ト云フ者



ハ、貴族ノ權利、レパイルス、レ西院議員ノ權利、兵役ニ奉事スルノ義務、一種ノ職官ヲ奉承スヘキ義務

〔按〕諸職官中ニ就テ、臣民必奉セサル可ラサ、レ云

ト、〔按〕是等ハ皆私人ニ、又第二類ノ公權利〔按〕前條

ノ意ニ任セテ、行止ス、トハ、元選者〔按〕立法府ノ

議負ヲ選擇スルニ、兩回選擇ノ法ヲ用フル國ア

リ、其第一回選擇ヲ掌ル者、元選者ト云フ、

ノ發言權利、〔按〕言レテ、其意ヲ述フル選擇ノ商議ニ、發

家ノ官吏ニ選擇セラル、ノ權利、新聞ヲ公布ス

ルノ權利、公事ノ集會ニ列スルノ權利等是ナリ、〔按〕是等亦公權利ナレ、兼テ公義務タラサル

ヲ以テ、其行止本人ノ意ニ任セテ妨ケナレ、○

以上諸權利ハ、純乎タル公權利ノ性ヲ得ルニ從

テ、其國權ニ屬スル、亦愈嚴ナリ、然ルニ此諸權

利、若私權利ニ近似スルキハ、法院之ヲ保護スヘ

キ、最モ當然ナルノミナラス、且選擇ノ自由〔按〕

負ヲ選擇スルノ自由ト云フ義ニシテ、選擇者〔按〕

ル者、絶テ政府ノ為メニ壓制セラレ、トナク、唯

衆議ニ得ルヲ自由ニ、及出版ノ自由ヲ保全スルカ

如キニ至テハ、必法院ノ保護ナカル可ラス、但政

務法院專ラ此諸權利ヲ保護スルハ、更ニ良法ト

ナス可シ、

第五 儘又公私相混淆スル制度、及法アリ、此制度



ト法トハ、例ヘハ猶其一足ヲ私法ノ區域ニ留メ  
 他ノ一足ヲ國法ノ區域ニ入ル、カ如ク相似タ  
 リ、是ヲ以テ、此制度及法タルヤ、政府ノ管轄ニ屬  
 スル部分ト、及法院ノ管轄ニ屬スル部分トヲ以  
 テ、綿密ニ區別スルヲ殆難シ、今特ニ左ノ諸件ニ  
 舉ル者、即チ是ナリ、

〔甲〕邑會シゲマイ及公事ノ會社ニ於テ、此ノ如キ制  
 度及法殊ニ多シ、而テ公事會社ノ如キハ、古時ハ  
 全ク私法ニ屬スル者ナリシカ、近今ハ大ニ公法  
 ニ係レル者トナレリ、凡、邑ノ所有權利、或ハ促償

負債ノトヨリ生スル爭論ノ如キハ、私法ニ係レ  
 ル者ナルカ故ニ、邑亦法院ノ保護ヲ受クル權利  
 ヲ有スルヲ、又他ノ一私人ニ異ナラス、而テ此ノ  
 如キ爭論、邑ト一個人トノ際ニ起リ、或ハ邑ト國  
 家トノ際ニ起ルニ論ナリ、此理ハ總テ相異ナル  
 トナレ、○但、邑ノ所有ハ元來全ク公衆利益ノ為  
 メニ備フル者ナルカ故ニ、政府其處分ヲ指令ス  
 ルノ理ニ於テモ、純乎タル私事ヲ指令スルノ理  
 トハ全ク相異ナリ、故ニ政府公衆安寧ニ著意シ  
 其權ヲ以テ、之カ處分ヲ指令ス可ク、且、若、此所有



ヨリ争論ノ起ルアルキハ儘又其權ヲ以テ之ヲ  
 裁斷スルヲアルヘシ、○二邑若自己ノ權力ノ區  
 域、或ハ道路橋梁ヲ修繕スヘキ義務等ニ就テ互  
 ニ争論ヲ生シタルキノ如キ、之ヲ審理裁斷スル  
 ハ、政務官ノ職掌ナリ、而テ若政務法院ヲレテ之  
 ヲ裁判セレムレハ、更ニ良好トス、但道路橋梁修  
 繕ノ一、專ラ私人ノ掌ル者ニ係レハ、乃此例ニア  
 ラス、其他一邑内、若クハ一會社内ノ衆員ト寡員  
 ト、事ノ可否ニ就テ、争論ノ生スルニ方リテハ、其  
 事當然國家ノ管轄ニ屬スル者ナレハ、政務官若

クハ政務法院宜シク之ヲ裁判スヘク、其事當然  
 私法ニ屬スル者ナレハ、私法院宜シク之ヲ裁判  
 ス可シ、○公事會社ノ編制、并ニ創立、解散等ハ勿  
 論、縱令純乎タル私會社ノ編制、創立、解散等ト雖  
 凡、其事公衆ノ為メニ利害アルヲ顧思スルト必  
 要ナレハ、則必政務官若クハ政務法院ノ管轄ニ  
 屬スヘシ、例ヘハ證書會社〔按〕卷之六第十八款ノ  
 臨監ノ章ニ出ツ、  
 如キハ、縱令私會社ナリト雖モ、必其證書ノ實ニ  
 確信ナルト否トヲ顧思スルト緊要ニシテ、且、又  
 獨、政務官若クハ政務法官能ク之ヲ顧思スルニ



堪ユ可シ、但私會社ニ於テ、此ノ如キ、<sup>一</sup>ノ緊要トナルハ、甚、罕ナルノミ、

〔乙〕身分ノ關係ルスタンデスハモ、亦公私ノ二法ニ分属ス、例ヘハ出生ノ児童ニ就テ、争訟起ルニ方リ、其兒正出〔按〕公然婚講セル夫婦ナリヤ、將私生間ニ私通セル男女ノナリヤヲ審判シ、及父ノ子ニ於ケル關係、親族互相ノ關係、并ニ其族黨〔按〕例ハ母族、伯叔甥姪及、其等階〔按〕例ハ本邦五等親ノ等ノ諸類ヲ云、及、親族中ニ等階ノ區別ヲ等ニ就テ起レル争訟ノ類ハ、實ニ私法ニ属スルヲナルヲ以テ、法院ノ掌ルヘキ、固ヨリ當

然ナリト雖モ、彼、インデゲナリト、〔按〕各人出生ノ

權利、國民權利、國事ニ關スルノ權利ヲ云、及、邑

民權利〔按〕邑事ニ關スルノ權利ヲ云、ニ就テ起レ

ル、争訟ノ如キハ、公法ニ属スル者ナルカ故ニ、必

政務官若クハ、政務法院ヲシテ、之ヲ掌ラシムル

ヲ良法ト為ス、但、此争訟若、唯出生ノ正私〔按〕正出

云、ヨリ起レル争訟ノ餘事ナルキハ、此例ニアラ

ス、○國民ノ身分、專ラ私法ニ属スル者ナルキハ、

〔中古ノ世ハ殊ニ此ノ如クナリキ〕某私人ハ當

此身分ニ属ス可レト云ヒ、或ハ當ニ彼身分ニ属



ス可ント云フ争訟ハ、從來ノ制度ニ由テ、必ス法院之ヲ裁判スルヲ掌ル、去レ、身分若ク專ラ國憲ニ關シ、公法ニ屬スル者タルキハ身分如何ノトヨリ起レル争訟ハ、必ス政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スヘキト、固ヨリ當然ナリ、例ハ、商賈ノ身分ハ、私法ニ關シテ法院ノ裁判ニ屬シ、貴族ハ、帝ニ門閥ノ平民ニ起ユルノミナラス、又國家政令ノ事ニモ參預スルヲ得ル國ニ於テハ、身分如何ヨリ起レル争訟ハ、必ス政務官若クハ政務法院ノ裁判ニ屬スルナリ、

〔丙〕産業ニ係レル權利フゲエルベスハ産業ヲ營ムヨリ得ル者ナルカ故ニ、必ス私法ニ屬スル者ナリ、去レ、儘公衆安寧ノ為ニ謀リテ、私人ニ此權利ヲ與ヘタルキニ於テ、若ク此權利ニ就テ裁判ヲ要スルトアルキハ、政務官若クハ政務法官之ヲ掌ル可シ、

〔丁〕後見ノ權利ホフルムベシトモ亦、公私ニ法ニ涉ル者ナリ、此權利ハ、元來親族法ハレヒリ及私法ニ屬スト雖モ、後見ノ務ハ、又公義務トナル者ナリ、是故ニ例ハ、後見ヲ命シ、或ハ免スルト、後見



人ニ某事務ヲ許可スルヲ、及保任ノ辯解ヲ為サ  
 レムルヲ、并ニ政務官常規ニ從テ、後見人ヲ管督  
 監察スル等ノ諸事ニ於テハ、決シテ唯正義公直  
 ノ旨ヲ守ルノミヲ以テ、本旨ト為ス可ラス、必、又  
 公衆ノ利害ニ著意スルヲ要ス、故ニ苟クモ法ノ  
 區域ヲ超過スルハ許サスト雖モ、必、俱ニ便益適  
 宜ヲ旨トシテ、處分スルヲ眼目ト為サ、ル可ラ  
 ス、○是ヲ以テ近今ニ至リテハ、便益適宜ノ處分  
 ハ、政務官ニ屬スル所ノ後見事務官ドホキフルムベ  
 デハルニ委託スルヲトナレリ、甚、良法ト稱ス可シ、

〔第六〕刑法ト、警保官ノ懲戒法ト、相異ナル所以ハ、

既ニ上卷卷之七  
第九款ニ於テ論說セリ、近今各國共ニ  
 刑罰憲法ゲストラフヲ以テ、此ニ法ニ尋常ノ刑法  
トノ區別ヲ詳定セリ、

譯者曰、本卷首尾事理殊ニ了解シ易カラズ、疊々  
 々思ヲ殫スト雖、尚恐ラクハ誤謬頗多カラシ、  
 他日間隙ヲ以テ、再ヒ訂正ヲ加フ可シ、讀者請  
 フ之ヲ諒セヨ、

大井潤一校

國法汎論卷之八下終



國語源論

卷八

異部雀



